

スイス金融、「秘密主義」転機

米に脱税情報、起訴回避

【ジュネーブ＝原克彦】顧客情報の秘密を守ることで知られたスイスの金融機関が、相次いで脱税ほう助に関する顧客情報を米司法省に提供している。見返りに起訴を免れた銀行は2015年3月のプライベートバンク大

手BSIを皮切りとして26行にのぼり、さらに増える見通しだ。スイス金融の秘密主義が終わりに向かう一方、外資の金融機関がスイスから撤退する動きも広がっている。

スイスでは300年以上にわたり、銀行が国外の捜査当局を含む第三者への顧客情報の開示を拒んできた。だが13年に米国の圧力でスイス政府と

金融界が方針を転換。スイスの銀行が米国人顧客の脱税に関する情報を聞くと同時に、顧客情報を直接的に米司法省に提供すれば、起訴を免れる制度

が設けられた。

15年3月にはイタリア保険大手ゼネラリの子会社のBSIが制度を利用した第1号案件として、

罰金2億1100万ドル(約263億円)を払う

こと同時に、顧客情報を

提供することで米司法省

と和解した。さらに大手傘下や独立系のプライベートバンクに加え、州立銀行も相次ぎ和解した。

銀行も相次ぎ和解した。た可能性が高いとして罰金が増える仕組み

で、罰金が増える仕組み

と和解した。さうに大手傘下や独立系のプライベートバンクに加え、州立銀行も相次ぎ和解した。

銀行も相次ぎ和解した。た可能性が高いとして罰金が増える仕組み

で、罰金が増える仕組み

と和解した。さうに大手傘下や独立系のプライベートバンクに加え、州立銀行も相次ぎ和解した。

銀行も相次ぎ和解した。た可能性が高いとして罰金が増える仕組み

で、罰金が増える仕組み

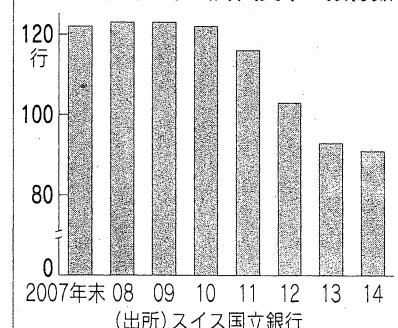
と和解した。さうに大手傘下や独立系のプライベートバンクに加え、州立銀行も相次ぎ和解した。

銀行も相次ぎ和解した。た可能性が高いとして罰金が増える仕組み

と和解した。さうに大手傘下や独立系のプライベートバンクに加え、州立銀行も相次ぎ和解した。

銀行も相次ぎ和解した。た可能性が高いとして罰金が増える仕組み

スイスに拠点を置く外国資本の銀行数



脱税情報の提供に踏み切ったBSI(チューリヒ)=ロイター

国立銀行(中央銀行)の統計によると、外国資本の銀行は14年末が91行で、09年末より26%減った。7月にはカナダ大手銀行のロイヤル・バンク・オブ・カナダがスイスのプライベートバンク事業をジュネーブの金融機関に売却すると決めた。ロイター通信によると、英国资本の金融大手スタンダードチャータードはスイスのプライベートバンク事業の売却先を探したが買手は見つからず、売却せずに撤退する意向だ。

検が始まっていたため、起訴は免れない。14年にはクレディ・スイスが罪を認め20億ドルを超す罰金を払った。捜査を受けていると報じられているジユリアス・ベアは1~6月期決算で米司法省に払う罰金を想定し3億5千万ドルの損失を計上した。08年からの金融危機で世界の大手銀行が事業縮小を迫られただけでなく、スイスの秘密主義の魅力が薄れ、同国に拠点を置く外国資本の銀行が減り続けている。スイス